

「振り返る活動」の充実もめざしていきましょう②。

「めあて・まとめ・振り返り」をセットに。

前号に引き続いて本号でも「児童の振り返る活動」について具体的に考えていきたいと思えます。今回は、下記3点の課題から「2」について紹介させていただきます。

- 1 子どもがまだ「振り返り」を書けない（低学年）
- 2 「振り返り」はどのように書かせればよいか分からない（各学年）
- 3 振り返る時間（コメントを含め）がなかなか取れない（各学年）

2 「『振り返り』はどのように書かせればよいか分からない」について

いろいろな書かせ方がありますが、基本は次の視点で書かせることとなります。

「本時のめあて」に対して、自分はどうかであったか

教師から次のような「型」を示すと、子どもたちはこの視点でより具体的に書きやすくなります。また、これを繰り返していくと、「型」を示さなくても書けるようになっていきます。

<本時のめあて> 小数×小数の計算の仕方について考えよう。

↓

<振り返りの型> 小数×小数の計算の仕方について考えてわかったことは・・・です。
また、むずかしいと思ったことは・・・です。だから次は、・・・です。

<本時のめあて> 情景が伝わるように音読し、友達と交流しよう。

↓

<振り返りの型> 情景が伝わるように音読し合って、友達のよかった点は、・・・です。
また、私と違う点は、・・・でした。これからの音読では、・・・です。

つまり、この2つの例からまとめて図示すると下記のようになります。

めあての文言を
振り返りの書き出しにする

今日の学習の結果を
次にどうするかを入れる

また、「なかなか書き出せない子」がいた場合は、振り返りの時間に次のやりとりをすることで書かせることができます。

T：（書けない子の隣に行き、）「どこがわかった？また、どこが難しかった？」

C：「〇〇はわかったけど、〇〇が難しかった。」

T：「なるほどね。じゃあ、それをそのまま書いてね。」



次号は、「課題3」への対応策を紹介させていただきます。